
領域名：成人保健看護

報告者：源河 朝治

教育及び実践の課題

本学では、多くの領域において臨地実習の直前に演習科目が配置されている。実習では、基礎的な知識を応用することが求められるため、実習の前段階である演習では多くの場面で反転学習法が用いられている。反転学習は、基礎的な知識を習得した上での参加が求められることから、演習に先立ち、基礎的な知識を確認するための事前課題を課していることが多い。しかし、成人保健看護領域では、事前課題に関する評価を臨地実習時の状況や学生の意見に基づいて行っているものの、研究成果に基づいて検討することはできていない。今回取り上げた論文にもあるように、事前課題は反転授業の成果に大きな影響を与えるため、内容の検討は重要である。

活用した論文の概要

今回活用した論文は、反転授業に用いられている事前課題についての文献レビューである。著者の Han ら(2019)は、事前課題のベストプラクティスを明らかにするために、医歯薬看護系の大学生・大学院生を対象にした文献 48 件を分析した。その結果、教科書の通読やビデオ講義といったよく使用されている事前課題の内容が明らかになった。また、事前課題に対する学生らの評価を踏まえ、事前課題におけるベストプラクティス 8 項目を提示した。この 8 項目には、「過剰な授業や二重講義を避ける」、「事前課題の具体的な指示やガイドを提供する」、「生徒が課題に必要な時間を意識する」、「授業前の課題に関する学習内容が理解できたかを学生自身に評価させる」、「事前課題をタイムリーに提供する」といった項目が挙げられていた。

教育及び実践への活用

ディスカッションを踏まえ、成人保健看護領域が担当している演習科目において課している事前課題の内容を、ベストプラクティスとして示された 8 項目にそって検討した。

その結果、まずは、演習や実習に影響がない程度に事前課題の量を見直した。また、課題に関する説明文も誤解を招かない表現に改めた。さらに、クリティカル・緩和ケア演習では、学生自身が学習成果を評価する事前課題を取り入れた。具体的には、一次救命処置の事前課題として、学生自身が行った胸部圧迫を視覚的に評価するシステムを導入し、自身の技術を客観的に評価できるように課題を設定した。事前課題を通して、学生からは「自身の技術を自らが評価できる機会を得ることで学習への意欲向上や自信の獲得につながった」との発言が聞かれた。

なお、学生への聞き取りから、事前課題に対する学生の負担は他の科目の課題も影響していることが明らかになった。今後、事前課題の在り方について領域横断的な検討が必要である。

事前課題の内容は、演習や実習に直接的に影響するだけでなく、学生の自由な学習時間の質の担保にも繋がる。引き続き事前課題と演習・実習との有機的連携を目指していきたい。

参考文献

Han E., Klein C.K. Pre-Class Learning Methods for Flipped Classrooms. American Journal of Pharmaceutical Education, 2019;83(1):40-49
